標本を送っていただいた。主にヤスデゴケ属の種で協同研究の結果10種を確認した。そのうち2種は新種で，他も殆んどラオス未記録のものであった。ラオスのフロラが殆んど手つかずの故であらう。同国，特に北方山岳地帯には，相接する北ベトナムの山岳地帯と共に，未だ沢山面白いコケがみつかることと思われる。

□ M.R.D. Seaward: **Lichen Ecology.** Academic Press Inc. (London) Ltd. 24/28 Oval Road, London NW1 7DX. 550 pp., $ 23.00, 1977。14名の学者がそれぞれ専門分野を担当した11章，2付録，索引2種で550頁からなる大冊。イスラエルやフィンランドの学者もいるが，全文が英語で統一されている。順をおって各章の表題を示すと次の通りで，いわゆる地衣学者ばかりでなく，生態学者にも参考になると思うので敢て本誌に紹介する。1) 緒言；2) 環境の変化と地衣類の分類；3) 開拓，成長，遷移と競争；4) 地衣類と無脊椎動物群集；5) 地衣類と脊椎動物；6) 北方の針葉樹林帯の地衣類；7) 寒冷荒野の地衣類；8) 高熱不毛地または高熱半不毛地の地衣類；9) 人工基物上の地衣群集；10) 英本国の地衣群集；11)英本国における地衣類の保護；付録A) 全世界の地衣フロラの文献；B) 用語の説明。分類索引と項目索引。　　(佐藤正己)

□ Eiji Takahashi: **Electron Microscopical Studies of the Synuraceae (Chrysophyceae) in Japan.** Taxonomy and Ecology. 194 pp. (incl. 68 pls.) 東海大学出版会 (1978) 7000 円。著者は約20年間主として日本産の黄金色藻類 (Chrysophyceae) の分類学的研究に従事してきたが，今回もっとも得意とするシヌラ科(Synuraceae) の成果を纏めて出版した。これは著者の博士論文でもある。シヌラ科の藻類は単細胞性または群体性で，体表に屋根瓦を敷きつめたように珪酸質の鱗片をつけているので，種の階級の識別形質には鱗片の形態が重視される。いきおい最近は種の同定に電子顕微鏡による観察が要求されてきた。著者は日本各地の陸水域96ヶ所より6属 (*Mallomonas*, *Mallomonopsis*, *Paraphysomonas*, *Synura*, *Chrysosphaerella*, *Spiniferomonas*)，46種4変種5型のシヌラ科の藻類を得，これらを光学及び電子顕微鏡により精査した。論文の内容はおよそ三部からなる。識別形質として採用される鞭毛，鱗片及び被殻等の形態の概説，種の記載及び地理的分布などである。それぞれの種については豊富な電顕写真 (96葉) と光顕による描写図が添えられる。黄金色藻については，従来日本では本格的な分類の仕事がほとんどなかっただけに，日本におけるこの分野の今後の研究に高橋永治博士の今回の労作の貢献は大きい。著者の永年の労を多としたい。　　(千原光雄)